

向洋本町自主防災会だより

《 第 7 号 》
平成28年8月20日発行

初の防災講習会を開催

7月31日、広島市防災士ネットワーク代表世話人柳迫長三氏を講師に招いて、町内初の防災講習会を開きました。

参加者は町内会役員のほか向友クラブ、女性会、子ども会の役員、民生児童委員など34名、2時間余りにわたって地域防災の大切さについて学びました。また、当日は行政と市民が一体で防災に努めるという趣旨で、南区役所地域起こし推進課災害予防担当 堀田氏ほか1名、さらに青崎地区防災連合会 高沖会長にも出席いただきました。



講演のポイント

災害に強い地域づくり

◎ 私だけは大丈夫

皆さん、そう思っていませんか？50年～60年何もなかったからといって、安心は禁物です。

東日本大震災、常総市水害、熊本地震、また県内では台風18号の高潮被害(平成11年)、庄原ゲリラ豪雨(平成22年)、8.20広島土砂災害など、いずれも思いがけない時に発生しているのです。

災害の予測はたいへん難しく、とりわけ地震は現在の科学をもってしても予知不可能と言われています。

◎ 防災と地域づくり

災害が発生したら、まず自分と家族の身を守る。それから隣近所で助け合う。避難所生活でも頼りになるのは地域のつながりです。

防災とは互いに助け合える地域をつくること、日頃の近所づきあいを大切にしましょう。

講師プロフィール

私の役割は「自分だけは大丈夫」の意識を改革すること、と明言。市消防局勤務の経験を生かし、防災に関する調査、研究のほか、講演で全国を回る。8.20土砂災害では被災者が避難しなかった理由や前兆現象について聞き取り調査、冊子にまとめられた。



◎ 備えあれば憂いなし

地震

- ① 緊急地震速報に注意する
グラツときたら、先ず身の安全を確保、避難のため頭と足をケガから守る。
- ② 住宅の耐震化をはかる
昭和55年以前の家は耐震診断を受ける。
(費用の一部を市が補助する制度がある)
- ③ 地震保険に加入する
被災後の生活再建に備える。

高潮

津波

- ① 「青崎学区浸水時避難計画マップ」で浸水想定区域や避難場所を確認しておく
(マップは今年初め各戸に配布済み)

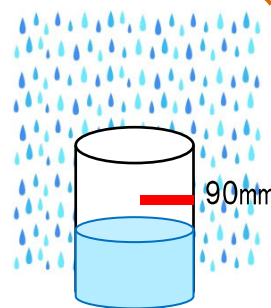
豪雨

- ① 急傾斜地など危険箇所を確認しておく
- ② 自分で雨量を知り、避難を判断する

材料 ペットボトル(2ℓ)

作り方 ペットボトルの底から15cm位のところをカッターナイフで切り取り、底から9cmの位置にサインペン(油性)でしるしをつける。

※ 平成22年7月庄原市を襲ったゲリラ豪雨の雨量が90mm/hであったことを参考に、1時間ですしるしの線まで雨水が溜まったら避難する。



◎ 防災士の養成

現在、広島市では地域防災の担い手として、防災士の養成に力を入れている。